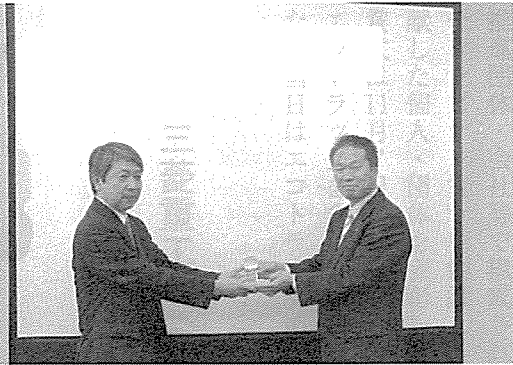


エコトラックが国際天然ガス自動車協会のチャンピオン賞を受賞

事業用車両全てがNGVという実績が評価される



エコトラックの池田取締役(右)と日本ガス協会の和田常務理事

エコトラック(本社・大阪府門真市、池田治子社長)はこのほど、国際天然ガス自動車協会のNGVチャンピオン賞を受賞した。同社の

全てにNGVを採用している。全国の約120の小中学校で環境授業を実施したり、運送業界での勉強会でNGVを使ったビジネスモデルの事例発表を100回以上行ったりしていることも評価された。

同社はその他にもNGV普及促進のための様々な取組を行ってきた。大手荷主であるパナソニックと協力して大型CNG(圧縮天然ガス)トラックを開発。パナソニックからは09年度に「SCM貢献賞・金賞」「ベストパートナー賞」を授与された。10年度には国土交通省の大型CNGトラック実証試験にも参加した。

日本ガス協会ビル(東京都港区)で行われた4日の国内での授賞式には、同社から池田雅信取締役が出席。日本ガス協会の和田洋幸常務理事から表彰のトロフィーを受け取った。

池田氏は「今回の受賞でこれまでの取組は間違っていないという自信をいただいた。NGVの普及促進は運送業界全体のためにもやらなければいけないと考えている。運送業の課題であ

事業用車両が全てNGV(天然ガス自動車)だった実績などが評価された。11月にメキシコで行われた授賞式に代理出席した日本ガス協会から4日、表彰のトロフィーが同社に手渡された。

エコトラックは1999年に創業した近畿地方を地盤にする運送事業者。事業用車両約70台

日成の廣瀬最高顧問の写真作品が第16回総合写真展に展示

日成(本社・東京都港区、廣瀬史雄社長)の廣瀬日出雄最高顧問の写真作品が、東京都美術館で5日~11日開催の「第16回総合写真展」に展示された。「カナダレークの花車」(撮影地カナダ)、「大正池から見た穂高山」(同長野県松本市)の2点が秀作に選ばれたもの。

「第16回総合写真展」は自由テーマのほかに、規定テーマを「春夏秋冬」に定



めて作品を募集。応募総数は計4036点で、厳正な審査により入選以上に鑑別されたフィルムならびにデジタル作品計2529点の力作を一同に展示した。

廣瀬氏は2009年5月末に会社・業界の実務から退任したのを機に、「より良い作品を作りたい」との気持ちから写真家としての活動を本格化。今年10月には日成の60周年記念として、写真展「風の色」を東京交通会館ゴールドサロンで開催している。

03年に東京交通会館ゴールドサロンで初の個展を開いて以降、05年には日本、海外の風景各50点を集めた写真集「風色知見」を刊行。08年には東京ミッドタウン内の富士フィルムフォトサロンスペース2で写真展を開催した。

る排気ガスの抑制にしっかりと取り組めば、業界の社会的地位の向上にもつながるはずだ」などと挨拶した。

国際天然ガス自動車協会は世界中のNGVの推進団体・会社等で構成される組織。「NGVチャンピオン賞」を創設し、NGVの普及に貢献した個人・団体を表彰している。今年度の授賞式は11月7日にメキシコで行われた。今回はエコトラックを含め5つの団体・個人が受賞した。当日はエコトラックの代表者は参加できな

かったため、日本ガス協会が代理でトロフィーを受け取っていた。

NGVは環境性に優れた次世代車として普及が進んでおり、全世界で約1000万台が導入されている。11年度末時点での国内の普及台数は約4万1500台で、トラックが半数弱の約1万8300台を占める。そのうち佐川急便が約4300台所有している。同社は昨年9月に国際天然ガス自動車協会からNGV保有台数世界一の事業者として認定された。

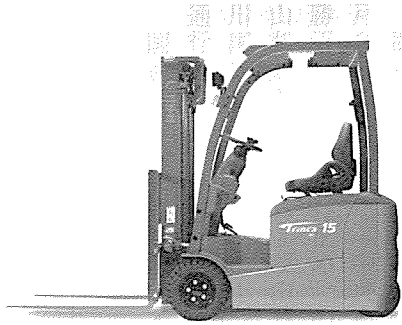
三菱重工とニチュウがフォーク事業統合で基本合意

13年4月1日の事業統合を目指す



三菱重工・グランディア

三菱重工工業 (大宮英明社長、三菱重工)と日本輸送機(二ノ宮秀明社長、ニチュウ)は、フォークリフト事業の統合に向けた基本合意書を締結した。



ニチュウ・トリンカ

三菱重工は大型から小型までのエンジン車に強みを持ち、海外では米国、フィンランド、中国の大連に生産・販売拠点を、オランダ、シンガポール、

内とアジア圏で、中小型バッテリー車を中心に物流システム機器などの事業を展開しており、13年3月には上海に次ぐ海外拠点としてタイ工場が稼働する。両社の事業統合により、商品ラインナップの充実や販売網の共通化・最適化、市場ニーズに合った製品開発、人員配置や設備投資の最適化などを行い、世界シェアの拡大を目指す。両社はこれまで、07年6月にニチュウが実施した第三者割当増資の全てを三菱重工が引き受け、ニチュウの筆頭株主となり、09年4月には国内販売事業を統合し、ニチュウ・MHIフォークリフトを設立するなど関係を強化してきた。今回の事業統合では、三菱重工が会社分割したフォークリフト事業をニチュウが引き継ぎ、統合会社は三菱重工の連結子会社とする。ニチュウは、株式保有割合の64・75%にあたる普通株式と議決権のない種類株式を三菱重工に割り当てるが、今後も上場を維持し独立した運営を推進する。今後、両社は13年2月に分割契約を締結し、4月1日に事業統合を目指す。

なお、統合会社の本社は、ニチュウの本社がある長岡京市東神足2・1・1に置くが、社名、代表者、資本金は未定。

富士通

物流業界向け運行支援システムに業界初の新機能を追加

ドライバーの運転技術を全国レベルで評価

富士通(本社・東京都港区、山本正巳社長)は4日、運行支援システム「TRIAS/TR-SaaS(トライアス ティーアール サース)」にお

いて新たな機能の提供を開始した。商用車の運行データをクラウドサービスで管理・分析し、環境性や安全性の視点でドライバーの運転技術